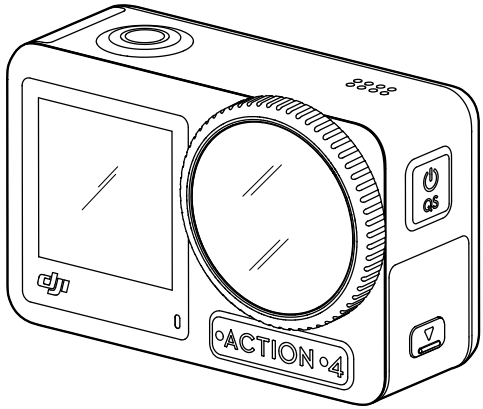
OSMO ACTION 4

ユーザーマニュアル

v1.0 2023.08



本書は、不許複製・禁無断転載を原則とするDJIの著作物のため、DJIから別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可することはできません。ユーザーは、本書およびその内容をDJI製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要　　ヒントとコツ

ご使用前にお読みいただくもの

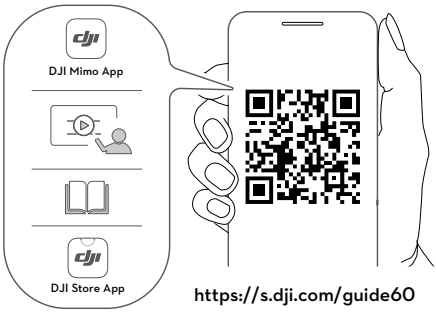
DJI™ OSMO™ Action 4を使用する前に、以下の文書をお読みください。

1. Osmo Action 4 安全ガイドライン
2. Osmo Action 4 クイックスタートガイド
3. Osmo Action 4 ユーザーマニュアル

初回使用前に、すべてのチュートリアルビデオの視聴し、安全ガイドラインを読むことをお勧めします。初めて使用する前に、必ずクイックスタートガイドを確認し、詳細についてはユーザーマニュアルを参照してください。

DJI Mimoアプリをダウンロードし、チュートリアルビデオを視聴

QRコードをスキャンしてDJI Mimoアプリをダウンロードし、チュートリアルビデオをご覧ください。



https://s.dji.com/guide60

Available on the iPhone App Store　iOS 12.0以降

Download for Android　Android 8.0以降

© 2023 DJI All Rights Reserved.

目次

本マニュアルの使用方法 **3**
凡例 3
ご使用前にお読みいただくもの 3
DJI Mimo アプリをダウンロードし、チュートリアルビデオを視聴 3

目次 **4**

製品の特徴 5
概要 5
アクセサリー 6

初めてのご使用にあたって **9**
バッテリーの取り付け 9
microSD カードの挿入 9
Osmo Action 4 のアクティベーション 10
Osmo Action 4 の充電 10

操作 **11**
ボタン機能 11
タッチ画面の操作 11
ステータス LED の説明 20
写真および動画の保存 20
ファイル転送 21
ウェブカメラモード 22
マイク接続 22

DJI Mimo アプリ **23**
DJI Mimo アプリのダウンロード 23
DJI Mimo アプリへの接続 23
DJI Mimo アプリのホーム画面 24
カメラビュー 25

メンテナンス **27**
ファームウェア更新 27
水中での使用に関する注意 27
お手入れについての注意 28
バッテリーの使用上の注意 28
他のアクセサリーの使用（非同梱品） 29

仕様 **32**

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

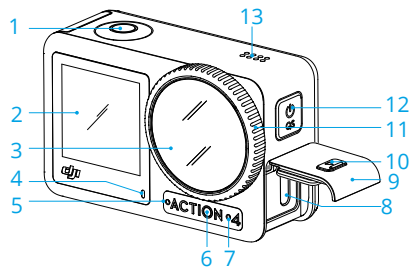
製品の特徴

Osmo Action 4 は最大4K/120fpsのスムーズな動画が撮影可能で、FOVは超広角の155°です。DJIの最新技術EIS（電子式映像ブレ補正）技術を使用して、Osmo Action 4は、様々なスポーツシーンでさらに滑らかな映像を記録できます。1/1.3インチのイメージセンサーを搭載したカメラは、ハイダイナミックレンジやハイコントラストに対応し、スポーツシーンや低照度の環境でも低ノイズの映像が撮影できます。さらに、D-Log Mカラーモードではより多彩になった色識別とさらに広くなったダイナミックレンジが利用可能で、これによりポストプロダクションの色補正が便利になります。

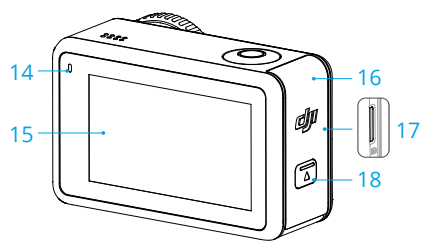
Osmo Action 4にはデュアル タッチスクリーンが搭載されています。前面のタッチ画面では完璧なセルフィーを撮影でき、背面のタッチ画面ではカメラのライブビューを表示できます。どちらのタッチ画面でも、指先の動きで設定を変更できます。カメラのボタンを使用して、録画を操作したり、撮影モードを切り替えたりできます。Osmo Action 4は、カメラ単体で水深18 mまでの防水性を発揮します。さらに他のOsmoアクセサリーと併用することで、Osmo Action 4のすべての機能を存分に楽しむことができます。

概要

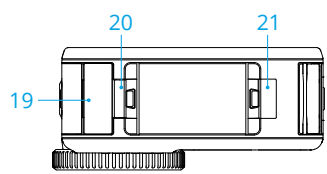
1. シャッター／録画ボタン
2. フロント タッチ画面
3. レンズ
4. ステータスLED I
5. マイク I
6. 色温度センサー
7. マイク II
8. USB-Cポート
9. USB-Cポートカバー
10. USB-Cポートカバー取り外しボタン
11. レンズ保護カバー
12. クイックスイッチ ボタン
13. スピーカー



14. ステータスLED II
15. リアタッチ画面
16. バッテリー収納部カバー
17. microSDカードスロット
18. バッテリー収納部カバー取り外しボタン



19. 防風マイク
20. クイックリリース用取り付け穴 I
21. クイックリリース用取り付け穴 II



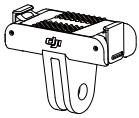
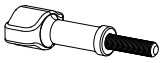
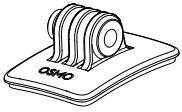
© 2023 DJI All Rights Reserved.

アクセサリー

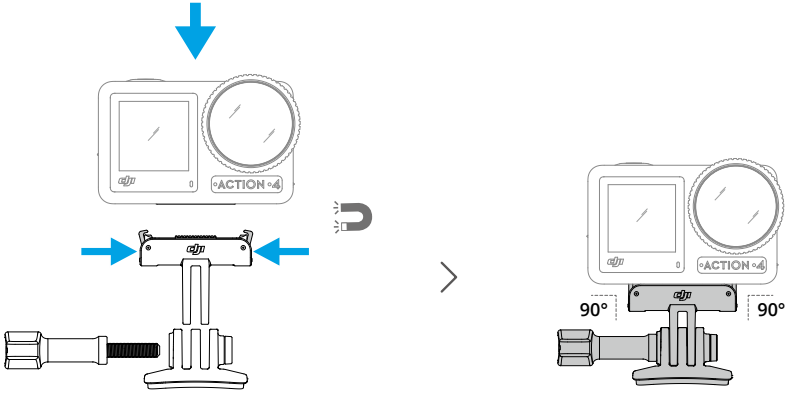
Osmo Action 4は様々なアクセサリーに幅広く対応し、多様なスポーツシーンの撮影に応じて柔軟に位置を変えることができます。

Osmo Action 接着式カーブベースキット

Osmo Action 接着式カーブベースキットには、次のアクセサリーが含まれています。

アクセサリー	説明
	Osmo Action クイックリリース式アダプターマウント：磁気設計により、クイックリリース式アダプターマウントはカメラに簡単に装着でき、他のアクセサリーに取り付けできます。
	Osmo 止めねじ：Osmo Action クイックリリース式アダプターマウントをOsmo Action接着式カーブベースに固定します。
	Osmo Action 接着式カーブベース：強力で耐久性があるベースは、清潔で平らな曲面にしっかりと取り付けることができ、接着性が長く持続します。

クイックリリース式アダプターマウントのクリップがカメラのクイックリリース用取り付け穴にしっかりと挿入されるまでカメラを押し下げ、止めネジで締めます。取り付け対象の接着面を拭いてから、接着ベースを取り付けてください。接着ベースをしっかりと貼り付けて、10秒間以上押さえ続けます。その後、30分待ってからカメラを取り付けることをおすすめします。

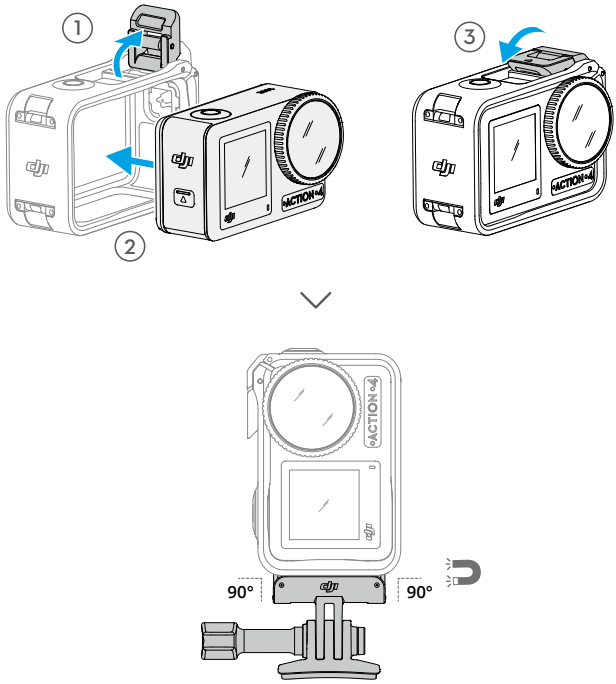


 © 2023 DJI All Rights Reserved.

- クイックリリース式アダプターマウントのクリップがカメラのクイックリリース用取り付け穴にしっかりと挿入されるまでカメラを押し下げ、止めネジで締めます。クイックリリース式アダプターマウントのクリップを押すと、カメラを取り外せます。
- Osmo Action 接着式カーブベースは、きれいな曲面に1回だけ取り付けが可能です。接着式カーブベースを、平らな面や粗い面、粉のついた面、はがれかけた面、ほこりや砂のついた面、または油やワックス、水汚れが付いた面には取り付けないでください。アダプターマウントがしっかり取り付けられない恐れがあります。
- ベースの推奨適用温度は -10°～40°Cです。この温度範囲よりも高い、または低い温度の表面に接着ベースを取り付けないでください。

Osmo Action 保護フレーム（水平＆垂直取り付け）

Osmo Action 保護フレーム（水平＆垂直取り付け）を使用すると、カメラの向きを水平から垂直位置にさっと切り替えて、異なるアングルで撮影できます。下図に示すように、保護フレーム（水平＆垂直取り付け）のバックルを開き、カメラをフレームに合わせてはめ込み、それからバックルを閉じます。フレームの左側にクイックリリース用取り付け穴が2つあり、Osmo Action クイックリリース式アダプターマウントを使用して、Osmo Action 接着式カーブベースキットやOsmo 1.5m延長ロッドといったアクセサリーを固定できます。



© 2023 DJI All Rights Reserved.

Osmo Action エクストリーム バッテリー

Osmo Action エクストリーム バッテリーは、-20℃～45℃という幅広い温度範囲に対応し、Osmo Action 4のパフォーマンスを向上させます。バッテリーの容量は1770 mAhで、最大160分*の連続動作が可能です。バッテリーの使用に関する詳細については、バッテリーの使用上の注意を参照してください。

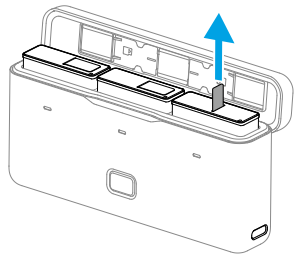
* 室温25℃の環境下で、1080p/24fps (16:9)動画撮影、RockSteadyオン、Wi-Fiオフ、画面オフの状態で測定。このデータはあくまで参考用です。

Osmo Action 多機能バッテリーケース

Osmo Action 多機能バッテリーケース（以下、省略して「バッテリーケース」）は、2つのmicroSDカードと3つのOsmo Action エクストリーム バッテリーを安全に保管できるように設計されています。ボタンを1回押す、もしくはバッテリーケースを開けると、バッテリー残量を確認できます。ステータスLEDには、バッテリー残量が示されます。バッテリー挿入時、充電器をバッテリーケースと接続すると、バッテリーケースはバッテリーを充電します。バッテリーをバッテリーケースに挿入し、USB-Cポートに外部デバイスを接続した場合は、バッテリーがパワーバンクとして接続された外部デバイスを充電します。

バッテリーを充電する場合、バッテリー残量の多いバッテリーから順番に充電されます。放電して他のデバイスを充電する場合、バッテリー残量の少ないバッテリーから順番に放電されます。

本バッテリーケースを使用してOsmo Action エクストリーム バッテリーを充電する場合は、DJI 30W USB-C充電器（別売）を使用してください。または、PD規格対応のUSB-C充電器やPPS (Programmable Power Supply) 規格対応のUSB-C充電器の使用をお勧めします。DJI 30W USB-C充電器と併用すると、3つのバッテリーを約2時間で完全に充電できます。



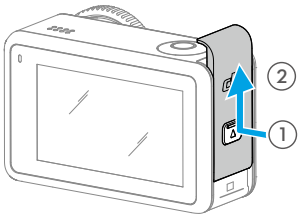
⚠
- 本バッテリーケースを、DJI OSMO非純正バッテリーの充電に使用しないでください。DJI OSMO非純正バッテリーの使用に起因する故障または損傷に対し、DJI OSMOは責任を負わないものとします。
- 本バッテリーケースを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。
- 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
- バッテリーケースは、防水ではありません。ケースを水に入れたり、液体をこぼしたりしないでください。

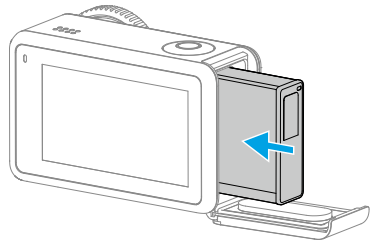
 © 2023 DJI All Rights Reserved.

初めてのご使用にあたって

バッテリーの取り付け

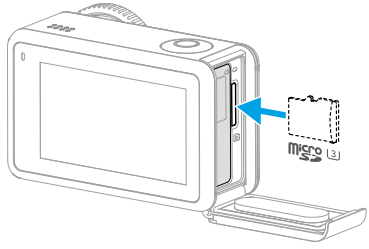
下図のように、バッテリー収納部カバー取り外しボタンを押して上にスライドしてから、バッテリーをバッテリー収納部に挿入します。バッテリーが正しく挿入されていることを確認してから、バッテリー収納部カバーを閉じます。注：バッテリーカバーが正しく閉まっていない場合、バッテリーカバーの下部に赤色のマークが見えます。正しく閉じてください。





microSDカードの挿入

Osmo Action 4で撮影した映像は、microSDカードに保存されます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-Iスピードクラス3規格のMicroSDカードが必要です。推奨microSDカードのリストの詳細については、仕様を参照してください。microSDカードを図のようにmicroSDカードスロットに挿入します。



・取り出し時は、優しく microSD カードを押し込むと、microSD カードを取り出せます。

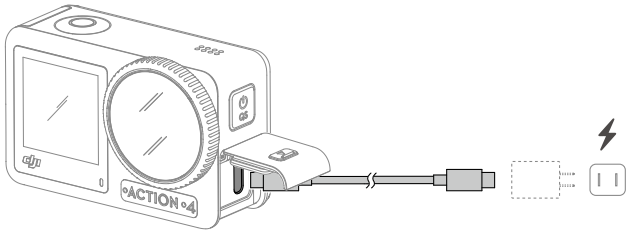
© 2023 DJI All Rights Reserved.

Osmo Action 4の充電

USB-Cポートカバー取り外しボタンを押して、カバーを下にスライドさせます。

Type-C - Type-C PD規格対応ケーブル（同梱）でUSB-CポートをUSB-C充電器（非同梱）に接続します。DJI 30W USB-C充電器、もしくはPD規格対応のUSB-C充電器やPPS (Programmable Power Supply) 規格対応のUSB-C充電器の使用をお勧めします。ステータスLEDが消灯すると、バッテリーの充電は完了です。バッテリーを80%まで充電するには、約18分かかります。完全に充電するには約49分かかります。*

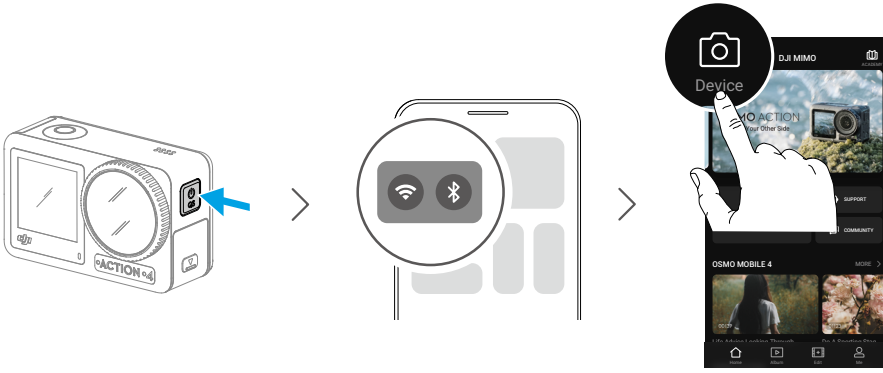
* 充電時間は、環境温度25°CでDJI 30W USB-C充電器を使用して試験されたものです。この値は、あくまで参考値です。



Osmo Action 4のアクティベーション

Osmo Action 4を初めて使用する際は、DJI Mimoアプリでアクティベーションを行う必要があります。アクティベーションは次の手順に従ってください。

1. クイックスイッチ ボタンを長押しして電源を入れます。
2. モバイル端末でWi-FiとBluetoothを有効にします。
3. DJI Mimoを起動し、をタップし、指示に従ってOsmo Action 4をアクティベーションしてください。

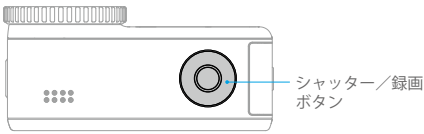


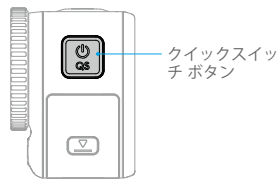
アプリの操作方法の詳細については、 DJI Mimoアプリの関連セクションを参照してください。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

操作

ボタン機能





シャッター／録画ボタン

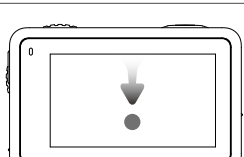
- 1回押す：写真を撮影する、もしくは録画を開始／停止します。
- 電源を切った状態で長押し：すばやく電源が入り、すぐ撮影を開始できます。撮影モードは、スナップショットの設定により異なります。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。

クイックスイッチ ボタン

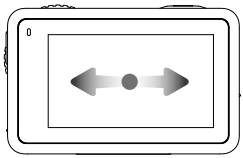
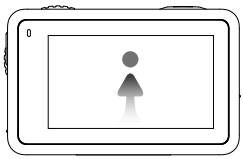
- 長押し：電源をオン／オフします。
- 1回押す：ジンバルモードの切り替えます。

タッチ画面の操作

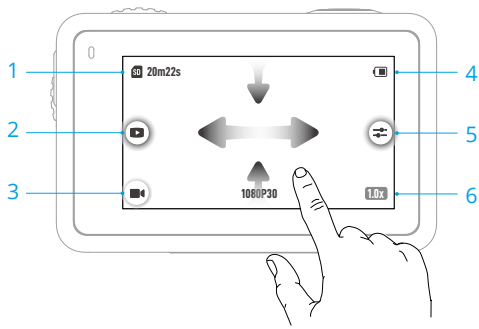
カメラの電源を入れると、カメラの両方のタッチ画面にライブビューが表示され、撮影モード／バッテリー残量／microSDカードの情報も表示されます。カメラを操作するには、タッチ画面をタップするか、上にスワイプしてください。注：2つのタッチ画面を同時に操作することはできません。1つのタッチ画面を操作すると、もう1つのタッチ画面はロックされます。

タッチ画面の操作	説明
	タップ 画面上にあるアイコンをタップして選択すると、撮影した映像を再生したり、カメラ設定を変更したりできます。
	**画面上部から下へスワイプ** 操作メニューに入ります。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

	**左または右へスワイプ** 動画モード、写真モードなど、撮影モードを切り替えます。
	**画面下部から上へスワイプ** アスペクト比、カウントダウンタイマー、解像度などの撮影パラメーターを設定します。

カメラビュー



1. **ストレージ容量の情報**

   20m22s ： このアイコンは現在の撮影モードに応じて、ストレージ容量、撮影できる写真の残数、または録画できる動画の残り時間を表示します。microSDカードが挿入されていない場合、SD未挿入のアイコンが表示されます。

2. **再生**

   ： タップすると、最後に撮影または再生した写真・動画をプレビューします。再生を終了してライブビューに戻るには、右からスワイプします。

3. 撮影モード

   ： このアイコンをタップすると、撮影モード選択画面に入ります。左右にスワイプして、撮影モードを選択できます。

撮影モード	説明
写真撮影	通常の写真撮影やカウントダウン撮影ができます。
動画	動画を録画します。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

スローモーション	4倍／8倍のスローモーション動画を撮影できます。スローモーションモードでは、カメラは高いフレームレートで動画を録画し、映像を通常の速度の4倍または8倍の低速で再生できます。スローモーションは、肉眼では見えない細部を捉えるため、速い動きを撮影するのに最適です。 注：スローモーション動画は音声を含みません。オーディオファイルは単体ファイルとして動画ファイルと同じパスに保存され、コンピュータに転送することができます。
タイムラプス	ハイパーラプスとタイムラプスから選択します。このモードでは、カメラの撮影間隔を設定して撮影することで、長時間の撮影を早送りの短編動画に変換します。 ハイパーラプスを使用すると、車中や手持ち撮影など撮影カメラ自体が動いている場合に、滑らかなタイムラプス動画でその動作を記録できます。カメラを取り付けて固定した状態で、タイムラプスを使用すると、固定位置からのタイムラプス動画を記録できます。 タイムラプスには3つのプリセット群衆、クラウド、サンセットがあり、典型的な撮影シーンでの撮影時間と撮影間隔をプリセットから選べます。また、タイムラプス動画の撮影間隔と撮影時間をカスタマイズすることもできます。

4. バッテリー残量

   ： このアイコンはOsmo Action 4の現在のバッテリー残量を表示します。このアイコンをタップすると、バッテリー残量の詳細情報が表示されます。

5. パラメーター

   ： クリックすると、映像や音声のパラメーターを調整できます。PROをタップすると、アイコンが黄色くなり、プロ向けのパラメーターを調整できるようになります。撮影モードにより、設定パラメーターは異なります。

撮影モード	パラメーター
写真	**ベーシックモード** FOVと画像のパラメーターを調整できます。 1. FOV：FOVは、標準（歪み補正）または広角に設定できます。 2. 画像調整：最適な画質のニーズに合わせて、シャープネスとノイズ低減を調整できます。 **PROモード** 露出、ホワイトバランス、FOV、フォーマット、画像調節が可能です。 1. 露出：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 2. ホワイトバランス：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 3. FOV：パラメーターはベーシックモードと同じ。 4. フォーマット：画像をJPEGで保存するか、またはJPEG+RAWで保存するかを選択。 5. 画像調整：パラメーターはベーシックモードと同じ。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

動画	**ベーシックモード** FOV、画像調整、低照度下でEIS優先、低照度映像 最適化が利用可能です。 1. FOV: FOVは、狭角、標準（歪み補正）、広角または超広角に設定できます。特定のフレームレートを使用している場合、一部の視野角オプションは使用できません。 2. 低照度下でEIS優先：低照度下でEIS優先を有効にすると、モーションブラーが除去され、ちらつき防止機能が無効になります。周囲光が暗すぎる場合は、映像のシャープネスに影響が生じる場合があります。 3. 画像調整：最適な画質のニーズに合わせて、シャープネスとノイズ低減を調整できます。 4. 低照度映像 最適化：有効にすると、カメラは低照度環境を自動的に検知し、露出パラメーターを調整して画質を向上させます。 **PROモード** 映像とオーディオのパラメーターを調整できます。 映像パラメーター：露出、ホワイトバランス、カラー、FOV、画像調整、低照度映像 最適化が利用可能です。 • 露出：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 • ホワイトバランス：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 • カラー：ノーマルとD-Log Mが利用可能です。D-Log Mは後編集の際にプロ仕様のカラーグレーディングが行えるように設計されています。ハイコントラストや色彩豊かな（庭、野原など）撮影シーンでダイナミックレンジを拡大でき、ポストプロダクションでの柔軟な色調整を可能にします。10-bit 色深度により、滑らかで自然な階調表現を実現します。 • FOV：パラメーターはベーシックモードと同じ。 • 画像調整：パラメーターはベーシックモードと同じ。 • 低照度映像 最適化：パラメーターはベーシックモードと同じ。 オーディオパラメーター：チャンネル、風ノイズ低減、ゲインが利用可能。 • チャンネル：ステレオとモノラルから選択。 • 風ノイズ低減：オンにすると、カメラはアルゴリズムを使用して内蔵マイクが拾った風ノイズを低減します。注：外部マイクを接続した場合、風ノイズ低減は機能しません。 • マイクを接続すると、マイクの入力ゲインを調整できます。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

スローモーション	**ベーシックモード** FOVと画像のパラメーターを調整できます。 1. FOV: FOVは、標準（歪み補正）または広角に設定できます。 2. 画像調整：最適な画質のニーズに合わせて、シャープネスとノイズ低減を調整できます。 **PROモード** 露出、ホワイトバランス、カラー、FOV、画像調整が利用可能。 1. 露出 露出：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 2. ホワイトバランス：AutoモードとM（マニュアル モード）が利用可能。 3. カラー：ノーマルとD-Log Mが利用可能です。D-Log Mは後編集の際にプロ仕様のカラーグレーディングが行えるように設計されています。ハイコントラストや色彩豊かな（庭、野原など）撮影シーンでダイナミックレンジを拡大でき、ポストプロダクションでの柔軟な色調整を可能にします。10-bit 色深度により、滑らかで自然な階調表現を実現します。 4. FOV：パラメーターはベーシックモードと同じ。 5. 画像調整：パラメーターはベーシックモードと同じ。
タイムラプス	**ハイパーラプス** **ベーシックモード：**FOV、低照度下でEIS優先、画像調整が利用可能です。 **PROモード：**露出、ホワイトバランス、カラー、FOV、画像調整が利用可能。 **タイムラプス** **ベーシックモード：**FOVと画像調節が利用可能です。 **PROモード：**露出、ホワイトバランス、FOV、フォーマット、画像調節が可能です。

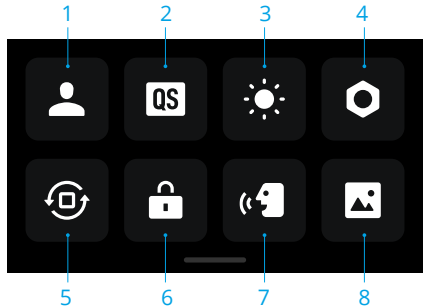
6. ズーム

1.0x ： アイコンを押したままドラッグすると、ズーム率を調整できます。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

下にスワイプ：操作メニュー

画面上端から下にスワイプすると、操作メニューに入ります。



1. **カスタムモード**

   をタップしてをタップすると、現在の設定をカスタムモードとして保存します。カスタムモードでは、撮影パラメーターを保存し、次回以降に同様撮影シーンがあった場合に、そのパラメーターを直接使用できます。最大5つのカスタムモードを保存できます。

2. **クイックスイッチ**

   クイックスイッチ ボタンでアクセス可能なモードを設定します：画面切替、カスタムモード、写真、動画、スローモーション、タイムラプス、ハイパーラプス、再生。音声プロンプトが有効な場合、モードを変更するためにクイックスイッチ ボタンを押すと、カメラは撮影モードを音声で通知します。カメラがヘルメットや直接見ることができない場所に取り付けられている場合、音声プロンプトで必要なモードを正確に選択することができます。

3. **明るさ**

   アイコンをタップして、スライダを動かすと、明るさを調整します。

4. **設定**

項目	説明
スナップショット	Osmo Action 4の電源が切れている状態、またはスリープモードの状態で、スナップショットを使うとすばやく電源が入り撮影を開始できます。対応撮影モードには写真、動画、前回の設定、HDR動画、ハイパーラプス、カスタムモードが含まれます。 撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。
1画面プレビュー（画面オフ（ロック時））	有効にすると、前面背面のうち、1つのタッチ画面のみがオンになります。タッチ画面をタップして上へスワイプすると、画面ロックが解除されます。
音声操作	タップして音声操作を有効にすると、音声コマンドでカメラを使用します。音声コマンドは、標準中国語と英語に対応しています。英語での音声コマンドには、Start Recording（録画開始）、Stop Recording（録画停止）、Take Photo（写真撮影）、Shut Down（電源オフ）があります。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

OTG接続	[OTG接続]をタップし、Type-C - Type-C PD規格対応ケーブル（同梱）を使用してカメラをAndroid端末に接続します。OTG接続を使用して、カメラからAndroid端末にファイルを転送できます。注：Android端末がOTG接続に対応している場合にのみ、OTG接続を使用できます。
無線接続	タップすると、無線情報を確認したり、Wi-Fi周波数を選択したり、Wi-Fi接続をリセットしたりできます。カメラをDJI Mimoに無線接続すると、ファームウェアを更新します。
動画圧縮	タップすると、効率モードか互換性モードかで動画コーデックを切り替えます。[効率性]を選択すると、より小さなファイルサイズに圧縮できるHEVCで動画がエンコードされます。[互換性]を選択すると、高い互換性を有するH.264で動画がエンコードされます。
音	タップして音量を設定します。高、中、低、ミュートが利用可能。
グリッド線	タップすると、ライブビューの写真や動画撮影の際のグリッド線の表示を設定できます。カメラの垂直および水平を確認するのに役立ちます。表示オプションには、[グリッド線]、[対角線]、[グリッド線＆対角線]があります。
タイムコード	タップしてカメラのタイムコードを設定します。タイムコードを設定すると、システム設定でカメラを同期できます。また、USB-Cポートを使用したタイムコードシンクロナイザーでカメラを同期することもできます。
名称設定管理	タップすると、保存フォルダーやファイルの命名規則を編集できます。
画面オフ（録画時）	タップして時間を設定します。録画が開始し、設定した時間が経つと、画面がオフになります。この動作は、録画には影響ありません。
自動電源オフ	タップして時間を設定します。設定した時間内にカメラが無操作だった場合、カメラの電源は自動的に切れます。
LED	Osmo Action 4の前面と背面にあるステータスLEDをオンまたはオフにします。
水平キャリブレーション	タップして、画面のプロンプトに従うと、水平をキャリブレーションします。
前回のライブ配信を継続する	タップして有効にすると、前回ライブ配信した時の設定を引き継ぐことができます。注：ライブ配信はDJI Mimoでのみ利用できます。
言語	タップすると、英語、簡体中国語、繁体中国語、日本語、韓国語、タイ語、アラビア語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ロシア語、ポルトガル語（ブラジル）、トルコ語、インドネシア語、ポーランド語の中から言語を設定できます。
日付＆時間	タップすると、カメラシステムの日付と時間を設定できます。
フォーマット	タップしスワイプすると、microSDカードがフォーマットされます。フォーマットすると、microSDカードのすべてのデータが完全に削除されます。フォーマットする前に、必要な全てのデータを必ずバックアップしてください。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

工場出荷時の設定に戻す	タップして、カメラを工場出荷時の設定に戻します。これにより、現在のすべての設定が削除され、カメラは工場出荷時の設定に復元され、再起動されます。
機器情報	タップすると、機器名、シリアルナンバー、ファームウェアバージョン、クイックスタートガイド、ログをエクスポートなどが表示されます。[ログをエクスポート]をタップすると、ログ情報をmicroSDカードにエクスポートできます。カメラがOsmo Action GPS内蔵リモコンに接続されている場合、リモコンのファームウェアバージョンを表示できます。
コンプライアンス情報	タップすると、コンプライアンス情報が表示されます。

5. **方向ロック**

   タップすると、自動方向と方向ロックを切り替えます。

6. **画面ロック**

   をタップすると、画面がロック状態になります。タッチ画面を上へスワイプすると、画面ロックが解除されます。

7. **音声操作**

   タップして音声操作を有効にすると、音声設定コマンドを使用して、カメラを操作できるようになります。音声操作は、サイクリング中やスキー中など、両手がふさがるスポーツシーンで便利です。

8. **フロント画面の全画面表示**

   タップすると、フロント画面の全画面表示を有効または無効にします。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

上へスワイプ - パラメーター設定

画面下部から上へスワイプすると、各撮影モードのパラメーターを設定できます。

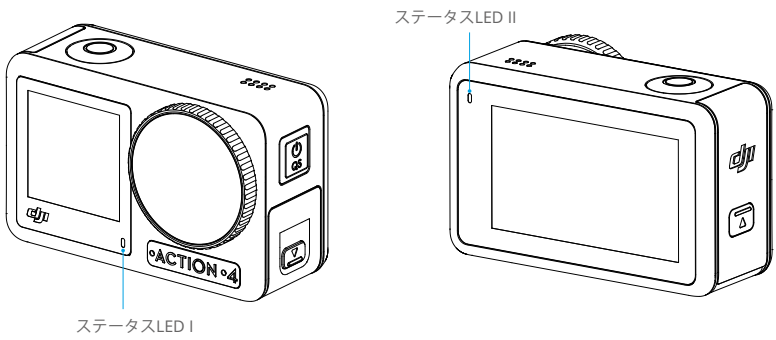
撮影モード	設定
写真	アスペクト比とカウントダウンタイマーを設定します。
動画	動画解像度とフレームレートを設定できます。 左上隅をタップすると、ループ撮影の撮影時間を設定できます。ループ撮影を使用している場合、動画撮影中、選択した時間が経つと、古い映像は新しい映像で上書きされます。自然な瞬間（釣り中など）を捉えようとする時は、ループ撮影を使用してください。これにより、カメラのmicroSDカードのスペースを節約しながら、録画を続けることができます。 右上隅をタップすると、EISモードを設定できます。[オフ]、[RockSteady]、[RockSteady+]、[HorizonBalancing]、[HorizonSteady]から選択できます。解像度とフレームレートが異なる場合は、特定のEISモードしか選択できません。 EISモードの違いにより、ブレ補正の性能は異なります。 • 無効：選択すると、FOVを最大にして動画を撮影します。 • RockSteady：映像のブレを補正しながら、ダイナミックな動きを維持します。一人称視点の撮影に適しています。 • RockSteady+：RockSteadyと比較すると、画像のエッジがより大きく切り取られるため、ブレ補正の性能が高まります。 • HorizonBalancing：このモードは、水平の傾き（45°）を補正します。このモードは、4K解像度の動画に対応しています。 • HorizonSteady：このモードは、どれほど水平が傾いても（最大360°）を傾きを補正できるため、カメラをどんなところに取り付けたり、身につけたりしても水平を維持します。
スローモーション	動画解像度と速度を設定できます。
ハイパーラプス	ハイパーラプスモードまたはタイムラプスモードを選択します。速度レートはハイパーラプスモードで設定できます。シーン／間隔時間／撮影時間は、タイムラプスの使用中に設定できます。 タイムラプスの使用中に、右上隅をタップして解像度を設定します。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

ステータスLEDの説明

Osmo Action 4には、前面と背面にステータスLED があり、同じステータス情報が表示されます。表示のオンとオフを切り替えることができます。

点滅パターン	説明
緑色点灯	撮影準備が整った状態
一時的に消灯	写真を撮影中
緑色点滅	Osmo Action 4の電源オフの状態で充電中
赤色と緑色に交互に点滅	ファームウェア更新中
赤色にゆっくり点滅	動画またはカウントダウン写真を撮影中
赤色に3回素早く点滅	カメラの電源をオフにする、もしくはローバッテリー残量時にカメラの電源をオン
オフ	microSDカードの異常（microSDカードが検知されない、microSDカードの容量が不足、またはmicroSDカードのエラー）



写真および動画の保存

Osmo Action 4で撮影した映像は、microSDカード（非同梱）にのみ保存されます。高解像度の動画データの保存には高速の読み書き速度が必要になり、UHS-Iスピードクラス3規格のMicroSDカードが必要です。写真と動画は、モバイル端末やパソコンに転送することもできます。詳細については、「ファイルの転送」 を参照してください。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

ファイル転送

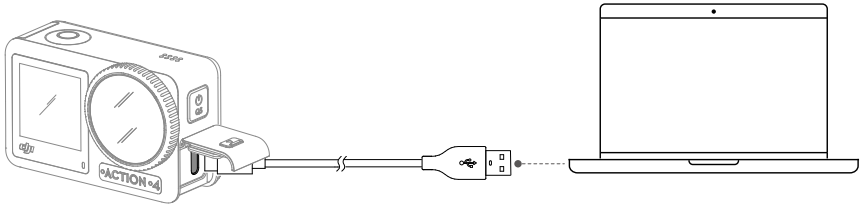
ファイルをスマートフォンに転送

Osmo Action 4を DJI Mimoに接続し、[再生]アイコンをタップして写真と動画をプレビューします。⤓をクリックして、写真と動画をダウンロードします。DJI MimoからSNSプラットフォームに、写真と動画を直接共有できます。

ファイルをパソコンに転送

Osmo Action 4の電源を入れ、USB-Cケーブルでパソコンに接続します。パソコンに接続すると、ポップアップが表示され、カメラのタッチ画面でUSB接続タイプを選択するように求められます。[ファイルの転送]をタップして、カメラからパソコンにファイルをダウンロードします。ファイルの転送時は、カメラで写真を撮影したり、動画を録画したりできません。

[キャンセル]を選択すると、Osmo Action 4の充電だけを実行します。



- ファイル転送が中断されたときは、Osmo Action 4をパソコンに再接続してください。

OTG接続によるファイル転送

Android端末がOTG接続に対応している場合、OTG接続を使用してカメラからAndroid端末にファイルを転送できます。

カメラのUSB-Cポートを使用して、Type-C - Type-C PD規格対応ケーブル（同梱）でカメラをAndroid端末に接続します。接続すると、端末のアルバムやファイル管理から、カメラに保存した写真や動画の閲覧や転送が可能になります。

- OTG接続を使用してカメラでAndroid端末を自動認識できない場合は、画面の端から下にスワイプすると、操作メニューに入り、[設定] > [OTG接続]をタップし、Type-C - Type-C PD規格対応ケーブルを使用してカメラを端末に接続します。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

ウェブカメラモード

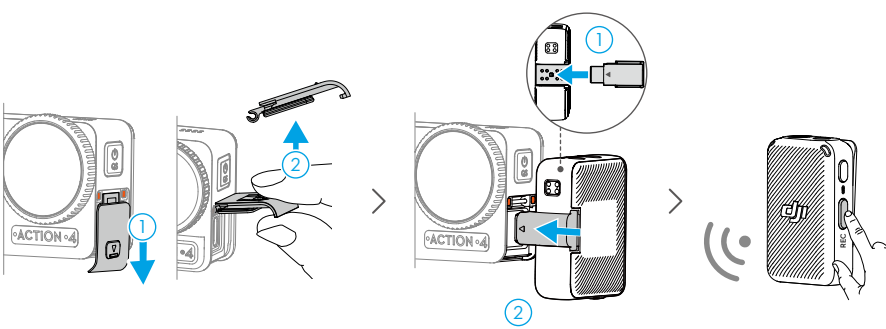
Osmo Action 4は、パソコンのウェブカメラとして使用することができます。カメラの電源を入れ、USB-Cケーブルでパソコンに接続します。カメラはUSBモードになります。[ウェブカメラ]をタップしてウェブカメラモードに入ると、カメラがウェブカメラ入力デバイスとして機能します。画面の下部には、ウェブカメラと表示されます。シャッター／録画ボタンを押すと、録画を開始します。画面右側の[パラメーター]アイコンをタップして、露出、ホワイトバランス、視野角の各パラメーターを設定します。ユーザーは、ウェブカメラモードを終了した後、録画した動画をプレビューできます。

マイク接続

Osmo Action 4は、DJI Micや外部マイク（48K/16ビット対応のサードパーティ製のデジタルUSB-Cマイクを含む）と接続することができます。

以下の手順に従って、マイクに接続してください。（ここでは、例としてDJI Micを使用します）

1. USB-Cポートカバー取り外しボタンを押して、カバーを下にスライドさせます。デバイスから外れるまで、カバーを上に持ち上げます。
2. レシーバーとトランスミッターの電源を入れ、レシーバーとトランスミッターがリンクされていることを確認します。
3. USB-Cアダプターを使用して、レシーバーをカメラのUSB-Cポートに接続します。画面にマイクのアイコンが表示されます。
4. トランスミッターを音声用に使用しながら、トランスミッターのリンクボタンを押して録音を開始します。リンクボタンをもう一度押すと録画が停止します。



- トランスミッターとレシーバーは、デフォルトでリンク済みです。トランスミッターとレシーバーが切断されている場合は、以下の手順に従ってリンクします。
  a. トランスミッターとレシーバーを充電ケースに入れると、自動でリンクします。
  b. トランスミッターとレシーバーの電源を入れます。次にトランスミッターのリンクボタンを長押しし、レシーバーの画面で下にスライドして、[設定]を選択し、スクロールして[デバイスをリンク]をタップしてリンクを開始します。リンクが正常に完了すると、ステータスLEDが緑色に点灯します。

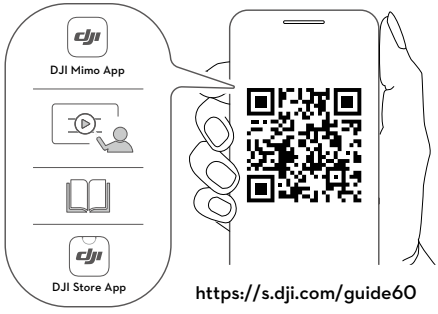
 © 2023 DJI All Rights Reserved.

DJI Mimoアプリ

DJI Mimoアプリを使用すると、現在のカメラビューをモニターしたり、カメラパラメーターを設定したり、モバイル端末を使用してカメラを制御したりできます。DJI Mimoアプリでは、ファイル転送、編集と共有、スキー用インビジブルスティック、Wi-Fiライブ配信といった一連の機能の使用により、Osmo Action 4を最大限に活用できます。

DJI Mimoアプリのダウンロード

アプリストアでDJI Mimoを検索するか、QRコードをスキャンして、ダウンロードとインストールを行います。



https://s.dji.com/guide60

Available on the iPhone App Store
iOS 12.0以降

Download for Android
Android 8.0以降

DJI Mimoアプリへの接続

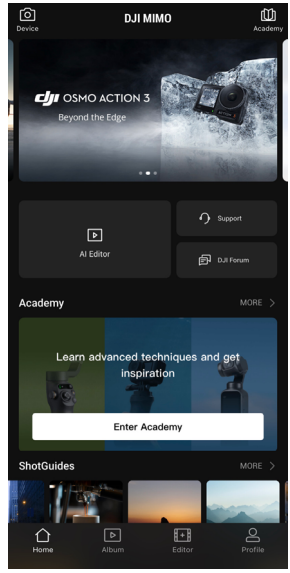
1. Osmo Action 4に電源を入れます。
2. モバイル端末でWi-FiとBluetoothを有効にします。
3. DJI Mimoを起動し、をタップし、指示に従ってOsmo Action 4をアクティベーションしてください。

- DJI Mimoへの接続時に問題が発生した場合は、以下の手順に従ってください。
  a. モバイル端末でWi-FiとBluetoothの両方が有効になっていることを確認してください。
  b. DJI Mimoアプリのファームウェアが最新バージョンであることを確認します。
  c. 画面上部から下にスワイプして操作メニューに入り、[無線接続] > [接続をリセット]を選択します。カメラのすべての接続とWi-Fiパスワードがリセットされます。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

DJI Mimoアプリのホーム画面

DJI Mimoを起動してホーム画面に入ります。



デバイス：タップしてOsmo Action 4に接続します。接続すると、DJI Mimoはカメラビューに入ります。

アカデミー：タップすると、チュートリアルやマニュアルを閲覧できます。

AI編集：写真・動画編集用のテンプレートがあります。

ホーム：タップすると、ホーム画面に戻ります。

アルバム：モバイル端末またはDJIデバイスから映像を管理および表示します。

編集：タップすると、Osmo Action 4上の写真や動画を編集したり、インポートしたファイルをモバイル端末で編集したりできます。

プロフィール：DJIアカウントの登録やログインをします。作品や設定を表示したり、いいね！やフォロワーを確認したり、他ユーザーへのメッセージ送信やDJIストアへの連絡を行ったりすることができます。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

カメラビュー

撮影モードによって、カメラビューの表示は異なります。ここでの画面は参照用の一例です。

1. **ホーム**

   ：タップするとホーム画面に戻ります。

2. **Wi-Fi**

   ：Wi-Fi接続の状態を表示します。

3. **バッテリー残量**

   99% ：Osmo Action 4の現在のバッテリー残量を表示します。

4. **microSDカード情報**

   SD 59:59 ：現在の撮影モードに応じて、撮影できる写真残数、または録画できる動画の残り時間を表示します。

5. **カスタムモード**

   ：をタップしてをタップすると、現在の設定をカスタムモードとして保存します。カスタムモードでは、撮影パラメーターを保存し、次回以降に同様撮影シーンがあった場合に、そのパラメーターを直接使用できます。最大5つのカスタムモードを保存できます。

6. **シャッター／録画ボタン**

   ：タップすると、写真を撮影、もしくは録画を開始／停止します。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

7. **撮影モード**

スクロールして撮影モードを選択します。

撮影モード	説明
ハイパーラプス	ハイパーラプスを使用すると、車中や手持ち撮影など撮影カメラ自体が動いている場合に、滑らかなタイムラプス動画でその動作を記録できます。[再生]をタップすると、撮影したタイムラプス動画をすぐにプレビューできます。
タイムラプス	カメラを取り付けて固定した状態で、タイムラプスを使用すると、固定位置からのタイムラプス動画を記録できます。タイムラプスには3つのプリセット群衆、クラウド、サンセットがあり、典型的な撮影シーンでの撮影時間と撮影間隔をプリセットから選べます。また、タイムラプス動画の撮影間隔と撮影時間をカスタマイズすることもできます。
スローモーション	4倍／8倍のスローモーション動画を撮影できます。スローモーションモードでは、カメラは高いフレームレートで動画を録画し、映像を通常の速度の4倍または8倍の低速で再生できます。スローモーションは、肉眼では見えない細部を捉えるため、速い動きを撮影するのに最適です。注：スローモーション動画は音声を含みません。オーディオファイルは単体ファイルとして動画ファイルと同じパスに保存され、コンピュータに転送することができます。
動画	動画を録画します。
写真	通常の写真撮影やカウントダウン撮影ができます。
ライブ配信	Osmo Action 4は、YouTubeやFacebookなどのライブ配信プラットフォームへのライブ配信に対応しています。

8. **再生**

▶ ：タップすると、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。

9. **設定**

••• ：選択した撮影モードでベーシックモードまたはPROモードを設定します。PROを有効にすると、視野角、フォーマット、露出、ホワイトバランスといった設定が利用可能となります。どの撮影モードを使用するかにより、設定するパラメーターは異なります。

10. **撮影パラメーター**

1080 30 ：現在の撮影モードやパラメーターを表示します。タップすると、パラメーターを設定できます。

11. **ズーム**

1.0x ：現在のズーム率を表示します。画面の上に2本の指を置き、広げるとズームインし、縮めるとズームアウトします。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

メンテナンス

ファームウェア更新

DJI Mimoを使用して、Osmo Action 4のファームウェアバージョンを更新します。

ファームウェアバージョン更新の前に、Osmo Action 4のバッテリー残量が15%以上あることを確認してください。Osmo Action 4をDJI Mimoアプリに接続します。新しいファームウェアが利用できる場合、DJI Mimoで通知が表示されます。画面上の指示に従ってファームウェアを更新してください。更新には約2分かかります。

水中での使用に関する注意

Osmo Action 4は、水深18 mまで使用できます。Osmo Action 60m 防水ケースと併用すると、水深 60 mまで使用できるようになります。水中で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

1. バッテリーを挿入する前に、バッテリーとバッテリー収納部が乾いた清潔な状態であることを確認してください。バッテリーの接続性や防水性に影響を及ぼす恐れがあります。バッテリーを挿入した後、バッテリー収納部カバーがしっかりと閉じられていることを確認してください。注：カバーが正しく閉まっていない場合、バッテリーカバーの下部に赤色のマークが見えます。正しく閉じてください。
2. 使用する前に、USB-Cポートカバーが清潔できちんと閉じていることを確認してください。デバイスの防水性能に影響を与える恐れがあります。
3. 使用する前に、レンズ保護カバーが清潔でちゃんと閉じていることを確認してください。デバイスの防水性能に影響を与える恐れがあります。レンズ保護カバーとレンズを清潔で乾燥した状態に保ってください。鋭利なものや硬いものはレンズを傷つけ、本体の性能に影響を与える恐れがあります。レンズ保護カバーがしっかりと装着され固定されていることを確認してください。
4. Osmo Action 4は、バッテリー収納部カバー、USB-Cポートカバー、レンズ保護カバーがしっかりと装着され固定されていない限り、防水ではありません。Osmo Actionレンズフードを使用している場合は、カメラに防水性はありません。
5. Osmo Action 4を持って、勢いよく水に飛び込むことは避けてください。衝撃で漏水する恐れがあります。水に飛び込む前にカメラの防水性に問題がないか確認してください。必要な場合は防水ケースを併用ください。
6. 温泉などで腐食性のある液体中で、Osmo Action 4を使用しないでください。極端な水中環境など不明な液体中で、Osmo Action 4を使用しないでください。
7. 水中で使用した後は、浄水でカメラを洗ってください。次回使用するまで、自然乾燥させてください。ヘアドライヤーの熱風でカメラを乾かさないでください。マイクの薄膜や内蔵通気性薄膜が破裂し、カメラの防水性が失われる恐れがあります。

ダイビング、サーフィン、長時間にわたる水中での使用、高い衝撃圧力や水圧を受けるような状況では、Osmo Action 4に防水ケースを取り付けてください。防水ケースを使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

1. 使用中、ゴム製シールが清潔でしっかりと取り付けられていることを確認してください。
2. 防水ケースが乾いていて（より良く使用するため、使用中は曇り止めインサートをケースに入れてください）、ラッチがしっかりと固定されていることを確認してください。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

3. ご使用前に、正常に機能することを確認するため、防水ケースを約5分間水中に入れておくことを推奨します。
4. 海で使用した後は、腐食防止のため、本ケースを水道水ですすいでください。

- Osmo Action 4のタッチ画面は、表面が濡れていても操作できます。
- タッチ画面は水中では機能しません。カメラのボタンを押すことで録画を開始できます。Osmo Action 4 防水ケースなしで、本カメラを水深14 m以上で使用すると、シャッター／録画ボタンが自動的に無効になります。

お手入れについての注意

1. レンズ保護カバーは、水、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアーブロワー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。レンズ保護カバーの交換時は、カメラが乾いた状態であることを確認してください。Osmo Action 4を水中で使用した後は、カメラを乾かしてから使用してください。これを行うことにより、レンズ保護カバーに水が浸入して、レンズが曇るのを防ぎます。レンズ保護カバーを頻繁に取り外さないでください。レンズカバー内にほこりがたまり、撮影画質に影響を与える可能性があります。
2. レンズは、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアーブロワー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。
3. 乾いた清潔な布で、バッテリーとバッテリー収納部を掃除してください。

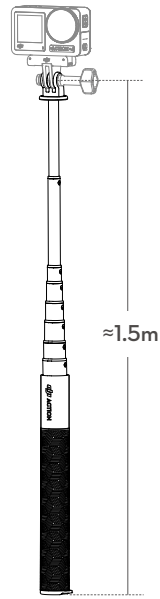
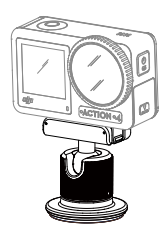
カメラのクイックリリース用取り付け穴にほこりや砂が付着していないことを確認し、クイックリリース式アダプターマウントを取り付けてください。

バッテリーの使用上の注意

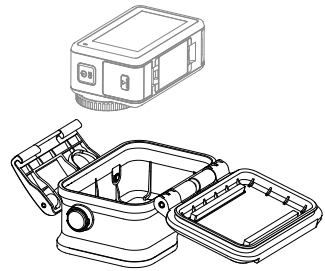
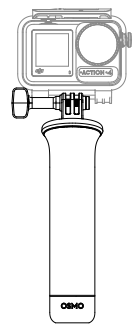
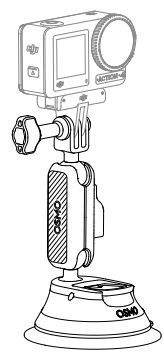
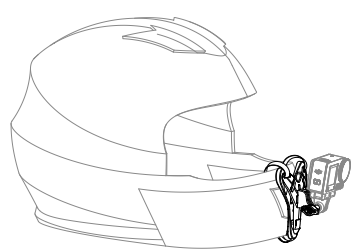
1. DJI Osmo以外のバッテリーは使用しないでください。新しいバッテリーはwww.dji.comで購入できます。DJI OSMO非純正バッテリーの使用に起因する故障または損傷に対し、DJI OSMOは責任を負わないものとします。
2. バッテリーは、-20℃～45℃の動作環境温度条件下で使用してください。45℃を超える温度でバッテリーを使用すると、火災や爆発につながる恐れがあります。低温環境でバッテリーを使用する前に、室温環境でバッテリーを完全に充電することをお勧めします。理想的な温度でバッテリーを充電すると、バッテリーの寿命を延ばすことができます。
3. バッテリーを長期間使用していなかった場合は、バッテリー性能に影響を与える可能性があります。
4. バッテリーを良好な動作状態に保つために、3カ月に1回はバッテリーを完全に放電したあと完全に充電するようにしてください。
5. 長期間保管する場合は、Osmo Action 4からバッテリーを取り外し、バッテリーをOsmo Action 多機能バッテリーケースに保管してください。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

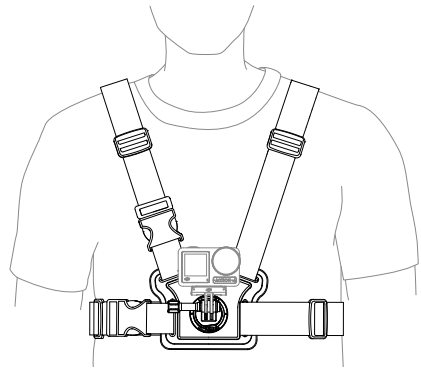
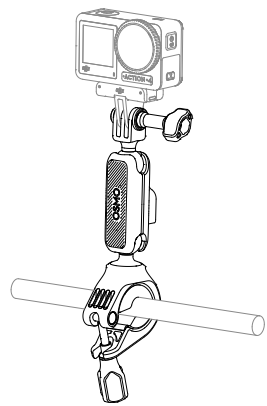
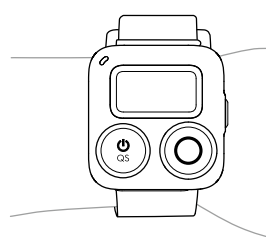
他のアクセサリーの使用（非同梱品）

アクセサリー	各部名称
Osmo 延長ロッド (1.5 m)	 1. 使用中は、延長ロッドの長さ（伸縮式）を適切に調整してください。 2. 損傷を避けるため、使用中は延長ロッドを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。 3. 損傷を避けるため、カメラ装着時に延長ロッドを乱暴に振り回したりしないでください。 4. 水中での使用後は、きれいな水ですすいで砂を取り除いてください。 5. 落雷を避けるため、雷雨時は延長ロッドを使用しないでください。
Osmo 磁気ボールジョイント アダプターマウント	

© 2023 DJI All Rights Reserved.

Osmo Action 60m 防水ケース	
DJI フローティングハンドル	
Osmo Action サクションカップ マウント	
Osmo Action ヘルメット顎マウント	

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

Osmo Action チェストストラップ マウント	
Osmo Action ハンドルバー マウント	
Osmo Action GPS内蔵 Bluetoothリモコン	

対応するDJIデバイスは、今後継続的に更新いたします。すべての一覧はhttps://www.dji.com/osmo-action-4でご確認ください。

© 2023 DJI All Rights Reserved.

仕様

一般	
サイズ	70.5×44.2×32.8 mm （長さ×幅×高さ)
重量	145 g
防水性	18 m[1]（防水ケースなし）、60 m（防水ケース使用時）
マイクの数	3
タッチ画面	フロント画面：1.4インチ 323 ppi 320×320 リア画面：2.25インチ 326 ppi 360×640 フロント／リア画面輝度：750±50 cd/m²
対応SDカード	microSD（最大512 GB）
推奨microSDカード	推奨モデル： SanDisk Extreme Pro 32GB V30 A2 UHS-I スピードクラス3 Kingston Canvas Go!Plus 64GB UHS-I スピードクラス3 Kingston Canvas Go!Plus 128GB UHS-I スピードクラス3 Kingston Canvas React Plus 64GB UHS-II スピードクラス3 Kingston Canvas React Plus 128GB UHS-II スピードクラス3 Kingston Canvas React Plus 256GB UHS-II スピードクラス3 Lexar Pro 256GB SDXC UHS-I V30 R160/W120 (1066x) Lexar Pro 512GB SDXC UHS-I V30 R160/W120 (1066x)
カメラ	
センサー	1/1.3インチ CMOSセンサー
レンズ	FOV: 155° 絞り：f/2.8 フォーカス範囲：0.4 m～∞
ISO感度	静止画：100～12800 動画：100～12800
電子シャッター速度	写真：1/8000秒～30秒 動画：1/8000秒～1/X秒（X：フレームレート設定値）
静止画最大解像度	3648×2736
ズーム	デジタルズーム 静止画：4倍 動画：最大2倍 スローモーション／タイムラプス：利用不可
静止画モード	シングル：約10 MP カウントダウン：オフ/0.5/1/2/3/5/10秒

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

標準録画	4K (4:3)：3840×2880@24/25/30/48/50/60fps 4K (16:9)：3840×2160@100/120fps 4K (16:9)：3840×2160@24/25/30/48/50/60fps 2.7K (4:3)：2688×2016@24/25/30/48/50/60fps 2.7K (16:9)：2688×1512@100/120fps 2.7K (16:9)：2688×1512@24/25/30/48/50/60fps 1080p (16:9)：1920×1080@100/120/200/240fps 1080p (16:9)：1920×1080@24/25/30/48/50/60fps
スローモーション	4K：4倍 (120fps) 2.7K：4倍 (120fps) 1080p：8倍 (240fps)、4倍 (120fps)
ハイパーラプス	4K/2.7K/1080p：自動/2/5/10/15/30倍
タイムラプス	4K/2.7K/1080p@30fps インターバル：0.5/1/2/3/4/5/6/8/10/15/20/25/30/40秒 撮影時間：5/10/20/30分、1/2/3/5時間、∞
安定化機構	EIS[2]： RockSteady 3.0 RockSteady 3.0+ HorizonBalancing HorizonSteady
最大動画ビットレート	130 Mbps
対応ファイルシステム	exFAT
写真フォーマット	JPEG/RAW
動画フォーマット	MP4 (H.264/HEVC)
内蔵ストレージ容量	本カメラには内蔵ストレージはなく、映像は挿入されたmicroSDカードを使用して記録します。
オーディオ出力	48 kHz 16-bit、AAC
バッテリー	
種類	LiPo 1S
容量	1770 mAh
電力量	6.8 Wh
電圧	3.85 V
動作環境温度	-20°C～45°C
充電温度範囲	5℃～40℃
動作時間	160分[3]
接続	
Wi-Fi動作周波数	2.4000～2.4835 GHz 5.150～5.250 GHz 5.725～5.850 GHz

© 2023 DJI All Rights Reserved.

Wi-Fi プロトコル	802.11 a/b/g/n/ac
Wi-Fi伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: < 15 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC（日本）) 5.1 GHz：< 16 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：< 14 dBm (FCC/CE/SRRC)
Bluetooth 動作周波数	2.400～2.4835 GHz
Bluetooth伝送電力 (EIRP)	< 3 dBm
Bluetooth プロトコル	BLE 5.0

[1] 使用前は、バッテリー収納部カバーとUSB-Cポートカバーを閉じ、レンズ保護カバーをしっかりと締めてください。長時間水中で撮影する場合や高い衝撃圧力や水圧がかかる場合、防水ケースの使用をおすすめします。Osmo Action 4と防水ケースは、保護等級IP68を誇ります。温泉など腐食性のある液体中で、カメラを使用しないでください。また、酸性アルカリ性のpHが極端な水環境や不明な液体中で使用しないでください。

[2] スローモーションモードとタイムラプスモードで、EISは対応していません。動画解像度が1080p (16:9) または2.7K (16:9) で、フレームレートが60fps以下の時のみ、HorizonSteadyを利用できます。動画解像度が1080p (16:9)、2.7K (16:9) または4K (16:9) で、フレームレートが60fps以下の時のみ、HorizonBalancingを利用できます。

[3] 室温25℃の環境下で、1080p/24fps (16:9)動画撮影、RockSteadyオン、Wi-Fiオフ、画面オフの状態で測定。このデータはあくまで参考用です。

 © 2023 DJI All Rights Reserved.

お問い合わせはコチラ

連絡先
DJI サポート

本内容は変更されることがあります。

https://www.dji.com/osmo-action-4/downloads

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。**DocSupport@dji.com**

DJIとOSMOはDJIの商標です。
Copyright © 2023 DJI OSMO All Rights Reserved.